

研 究 報 告 書

学 校 名 久米島町立 球美中学校

I 研究主題

夢つむぐ島＝島人みんなで織り上げる未来を目指して

～環境教育等を基軸とした SDGs の取り組みを通して～

II 主題設定の理由

コロナ禍も相まって、社会や教育の在り方が大きく変化している。SNS の急速な普及に伴うグローバル化の進展、今なお危機的な状況にある国際紛争、加速する少子高齢化問題、そして突如として起こる自然災害など、現代社会は 10 年先どころか、1 年先を予想することも難しい。このようにこれからも急激に変動していく未来を生き抜くために、子どもたちの資質・能力を育む「教育の力」はますます重要性を増してきている。こうした背景を受け、令和 5 年 3 月に「第四期教育振興基本計画」が閣議決定された。その基本方針の 1 つに、「誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進」とある。「この誰一人取り残さない」という言葉は SDGs における代表的なフレーズであり、この方針からは教育の力で持続可能な社会を実現しようという力強いメッセージがうかがえる。

「教育」については、SDGs の目標 4 に位置づけられており、ESD（持続可能な開発のための教育）については目標 4 のターゲット 4、7 に明記されている。SDGs の目標を達成するためには、ESD の視点に立った教育活動を学校全体で推進していくことが極めて重要である。ESD の充実が持続可能な社会の創り手を育成し、17 の目標全ての達成に貢献するものだと期待されている。

久米島町立球美中学校（以下「本校」）は、沖縄本島の西方約 100 km の海上にある久米島の東側に位置している。地域の産業はサトウキビ生産を基幹作物とした農業や近海・養殖漁業、観光産業も盛んである。また、車エビ養殖や海洋深層水を活用した関連産業も注目されており、名所や史跡も多く、伝統工芸の久米島紬の生産も行われている。本校の前方には緑豊かな農地が広がり、その先には日本の渚 100 選に選ばれたイーブビーチ、そして東シナ海を望んでいる。本校後方には登武那覇城があり、風光明媚な地域環境である。

本校においては、SDGs の達成に向け、今年度の学校スローガンを「We can & We will (I can & I will)」と掲げた。総合的な学習の時間を核とした教科等横断的なカリキュラム・マネジメントを通して指導の更なる充実を図り、自己肯定感や主体性を高めながら、一人一人が持続可能な社会の創り手となる生徒を育成することをねらいとしている。そのために恵まれた地域教育資源を積極的に活用しながら、環境教育等を基軸とした SDGs の取り組みを意図的・計画的に行うこととする。本研究の継続的な取り組みが学校だけではなく、保護者や地域、ひいては島人みんなで久米島町の未来を織り上げていくことにつながっていくことと考え、本テーマを設定した。

III 研究内容及び実践

1 研究方針

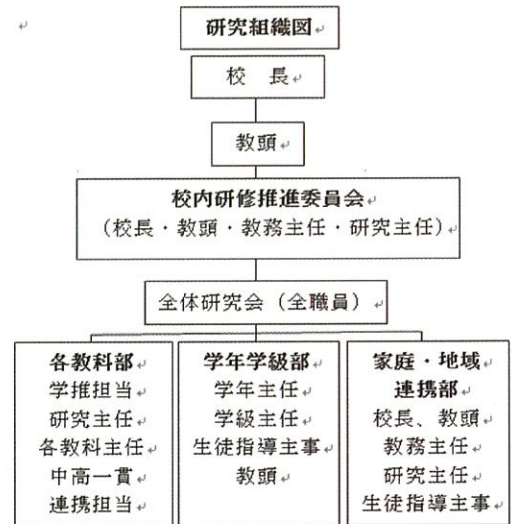
(1) 本校の総合的な学習の時間を中心とする教育実践を行う。

(2) 地域の自然環境・文化・伝統などの特色を生かしたエコプロジェクトの授業を、SDGs とつなげて研究・実践する。

(3) 小中高並びに地域教育資源との情報交換や連携をテーマの一つとする。

2 研究組織

部会名	内容
校内研修 推進委員会	○研究全体の推進 ○各実践の取りまとめ
全体研究会	○年間単元・題材配列表による授業実践
各教科部	○総合的な学習の時間を核とした教科横断の年間単元・題材配列表作成
学年学級部	○総合的な学習の時間の年間計画に沿った外部講師や外部機関などとの連絡・調整
家庭・地域 連携部	○家庭や地域との情報交換、連携



3 カリキュラム・マネジメントの視点に立った「単元・題材配列表」作成

各教科部で学年ごとに教科横断の年間単元・題材配列表を作成して学校経営指導計画の「総合的な学習の時間」の内容に挿入した。各学年の総合の時間で特に達成をめざす SDGs の目標を明確化し、どの教科でどの単元が SDGs の目標と関連があるのかを可視化した。また教科横断の視点では、例えば社会科でオセアニア州を取り扱う時期に合わせて英語科でもオーストラリアの学校について学ぶ単元を取り扱うなど、配列の工夫も行った。この配列表を新年度当初に共通確認をして職員のベクトルを揃え、授業を計画的に実践した。

1 学年の総合的な学習の時間で達成したい目標 (ゴール 14)

The matrix shows a grid of subjects (Social Studies, English, etc.) across months (September, October, November). A red box highlights 'SDGs 目標 14 海の豊かさを守ろう' (SDG 14: Conserve Oceans). A blue box highlights '14 海の豊かさを守ろう' (SDG 14: Conserve Oceans). A caption below reads '社会科と英語科の教科横断的な単元配列 (オセアニア州)' (Cross-subject unit arrangement for Oceania).

4 研究の実際

(1) 総合的な学習の時間について

1 学年は、SDGs の目標 14「海の豊かさを守ろう」の達成を目指し、総合的な学習の時間のエコプロジェクト (環境学習) に取り組んだ。6 月のフィールドワークでは、久米島ホテル館の館長を講師として招き、久米島の地質について学んだ。生徒たちは、国指定天然記念物 (地質鉱物) に指定されている畳石に実際に触れながら、長年の地質変化がもたらした海への影響などを考えることができた。2 学年は、SDGs の目標 7「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」の達成を目指した。活動内容は、海洋深層水施設の見学や、地産地消について考えるエコクッキング、さらにソ



写真 1 畳石での学習の様子



写真 2 バス亭のランタン

ソーラーランタンづくりの取り組みを行った。ソーラーランタンについては、久米島町の各バス停に実際に取り付けられ、地域の方々にも学習の成果を発信した。これら幅広い学習を経て、最終的には修学旅行先の関西と久米島の違いについて探究学習へとつなげた。3学年は、SDGsの目標11「住み続けられる街づくりを」をテーマに、これからの久米島町について考える課題解決的な学習に取り組んだ。生徒一人一人が、久米島町が抱える現状の課題について考え、探求し、SDGsの目標と結びつけながらスライド作成を行った。最終的には作成したスライドを用いながらプレゼン発表を行い、様々な視点からSDGsの目標を達成する意義について考えることができた。それぞれが持続可能な久米島町の将来の担い手として課題に向き合う姿がうかがえた。

(2) 「SDGs ウィーク」について

本校はSDGsの目標と教育活動を意図的・計画的に結びつけているが、10月には特にSDGsへの取り組みを意識的に強化しようと、生徒会が主体となってSDGsウィークの取り組みを実施した。各種専門委員会で話し合い、それぞれがSDGsの目標達成に向けて何ができるのかを議論した。校舎の中央階段横にあるモニターには実際の本校の電気・水道代や消費量を示し、生徒達に普段の学校生活について自ら考え、見直すきっかけを促した。報道委員会と学習委員会は、それぞれが調べた目標に対する「私たちができること」について日替わりで給食時の放送を行った。給食委員会と美化委員会は、ポスター作成を行い、それぞれのターゲット目標についてできる取り組みの呼びかけを全校生徒に向けて行った。体育委員会は、「誰一人取り残さない、みんなが参加できる」ソフトバレー大会を企画・運営をした。異年齢交流を通して、生徒たちは楽しみながら健康増進に励むことができた。2週間の取り組みを経て、各自が意識的に取り組んだSDGsについてタブレットにまとめた。生徒の振り返りからは、節電や節水に対する意識の向上や、全校生徒のSDGsに対する意識向上が結果として様々な場面で良い影響が出てきていることの自覚がうかがえた。職員からは、「普段の全ての行動がSDGsにつながっているね」というポジティブなメッセージをフィードバックした。これら一連の取り組みは、学びが一過性のものにならないように、掲示物として校内に残している。SDGsウィークは持続可能な取り組みとして、次年度以降も継続していく。

(3) 授業における「SDGsカード」の提示

本校は、授業において「めあて」、「評価基準B」、授業と関連するSDGsカードを毎時間提示している。その授業とSDGsとの関連、他の授業との関連の意識付けを図っている。中でも、目標4「質の高い教育をみんなに」は全教科で毎時間必ず提示することを徹底した。

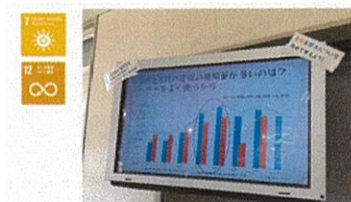


写真3 中央階段横モニター



写真4 生徒が作成したポスター



写真5 SDGsウィークの掲示物

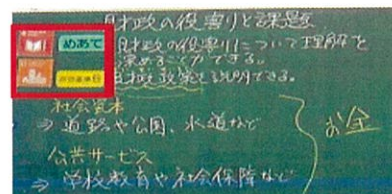


写真6 黒板板書の例 (社会科)

(4) LED イルミネーションの取り組み

年末には、「クリーンエネルギーで住み続けられる町作り、魅力ある学校づくり」をテーマに、校内に LED イルミネーションの設置を企画した。ポスターで生徒ボランティアを募集し、生徒と職員が一緒になって取り付けを行った。その後 LED イルミネーションの点灯の瞬間を、職員、生徒、保護者で共有して楽しんだ。この LED イルミネーションは、現在も本校を明るく鮮やかに彩っており、通りすぎる地域の方々にも喜んでもらえている。



写真7 イルミネーション取り付けの様子



写真8 地域へ情報発信する掲示版

(5) SDGs 出前講座・小中合同の校内研修について

9月には大学と連携し、大学講師による SDGs 出前講座を行った。講義を通して生徒達は SDGs についての知識を深め、これからの久米島のために自分たちができることをグループ討議して学級全体で共有することができた。12月には本校校区である美崎小学校にて、エシカル消費（目標12との関連）について小中合同で校内研修を行った。講師に一般社団法人 SDGs 未来ラボの代表理事を招聘し、「2030 SDGs ゲーム」の体験を通して、2030年の世界状況を経済、環境、社会のバランスの視点から考えることができた。研修を通して、職員の SDGs に対する見方、考え方をより深めることができた。



写真9 講座の様子



写真10 発表・意見共有の様子



写真11 2030 SDGs ゲームのカード

IV 研究実践の成果と課題

<成果>

- ・研究主題「夢つむぐ島」=島人みんなで織り上げる未来を目指して」について、全職員でベクトルを合わせて共通実践をしたことで、SDGs に対する生徒の理解と意識が高まった。
- ・総合的な学習の時間を軸として SDGs とつなげた授業実践を行い、各教科との学びのつながりを意識した横断的な教育活動が展開できた。
- ・小中連携及び中高連携、特別支援との連携を充実させ、SDGs の取り組みを共有できた。

<課題>

- ・SDGs に対する取り組みが教師主導の仕掛けが主であったため、生徒自らが主体となる「自立した学習者」の更なる育成が必要である。
- ・地域教育資源は積極的に活用できたが、「島人みんなで」という視点からすると、保護者をまきこんだ SDGs に対する更なる仕掛けが必要である。
- ・中高間における SDGs の取り組みの連携は、職員だけではなく生徒間の関わりを更に充実させたい。

<次年度の方策>

- ・次年度は、球美中学校 SDGs マトリックスを作成し、現行単元配列表をより充実させる。
- ・次年度の校内研修のテーマに SDGs の視点を入れ、ESD 教育の更なる推進を目指す。
- ・持続可能な取り組みとして、SDGs ウィークは継続して行う。